

演題番号：A3

左側子宮角異形成と同側の腎無形性が確認された猫の1例

○今本成樹，今本三香子

新庄動物病院・奈良県

1. はじめに：猫における卵巣子宮摘出手術は、小動物の診療施設においては最も頻繁に実施される手術の1つである。猫における子宮の異常は約0.1%の頻度で確認される。また、子宮の形成不全などの異常があれば、メカニズムは不明であるが同側の腎無形成が30%に認められることが報告されている。本邦において同様の報告はない。今回、卵巣子宮摘出手術実施時において、左側の子宮の遠位部における低形成と同側の腎臓の欠損を確認したことから、猫の子宮卵巣摘出術を行う際の注意点について考察した。

2. 材料および方法：6カ月齢の雌の雑種猫、体重2.5 kgが避妊手術のために来院した。術前における身体検査所見や血球検査や血液化学検査や血液凝固系検査は、基準値範囲内であった。手術は定法どおり実施した。術中に子宮体部を確認したところ、左側への分岐が確認できなかった。左側の子宮角の近位部分と卵巣は確認できたが子宮体部との接合は確認されなかった。手術中に左側の腎臓が目視、触知できなかったために、手術終了後に尿路造影を実施した。

3. 結果：摘出した子宮と卵巣は、左側子宮角の近位において子宮内に液体の貯留が確認された。また、尿路造影では、

左側の腎臓と尿管への造影剤の分布が確認できなかった。以上より、左の腎臓と尿管が先天的に存在しないと診断した。

4. 考察および結語：子宮の先天的な異常は、既報のデータでは雌猫においては約0.1%で確認されている。子宮の低形成を認める個体においては、同側の腎無形成が約30%に認められる。今回、我々が経験したのが雑種猫であることを考えると、国内においても片側の子宮の形成不全と片側の腎臓の欠損を持つ無症状の猫がいると考えられる。猫においては嘔吐を主訴とし、血液検査で血中尿素窒素や血中クレアチニン濃度上昇を呈した9カ月齢の猫で、右子宮角遠位部分の欠損と同側の腎臓と尿管の欠如が確認されたとの報告もある。猫の卵巣子宮摘出手術の場合には、子宮体部の確認をおこない、子宮角への分岐が確認できない場合や、形成不全が確認された場合には、同側の腎臓をCT検査や超音波検査等において確認する必要がある。特に、卵巣のみを摘出する手術においては、このような異常を見逃さないために、子宮角の遠位部までは確認すべきである。